

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島郡瀬戸町24
電話 2-9772

生徒指導 学校訪問より

生徒指導に係る学校訪問などで全小中学校を回らせて頂きました。たくさん感想を持ちましたが、「児童生徒数が減ったこと」「子供たちが落ち着いていること」「先生方が一生懸命なこと」の三点を特に感じました。

児童生徒数の減少傾向は進んでいますが、授業での子供たちの輝き、活発な意見は失われることなく、落ち着いて楽しい学校生活を送っていることをうれしく思いました。特に印象に残っているのが「複式学級のわたり授業」です。「子供が少ないが活気が失われる」。このことに気づかれました。ガイドの児童が授業を進め、周囲の児童はガイドの指示や個性を理解しな

から活発な意見を飛ばしあう。私が学校現場でやりたかった、またやり残した学習のあり方で、ここには「生徒指導提要（五ページ）」にある①自己存在感を与える②共感的な人間関係の育成③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助、の三機能が含まれていました。どの小中学校の先生方も一生懸命、教材研究や生徒指導に取り組んでおられ、身の引き締まる思いがしました。

今年度、隠岐教育事務所が「生徒指導の重点」で挙げたのは「連携を重視した生徒指導体制の充実を図る」とこと「いじめ防止基本方針」といじめ防止対策の組織を機能させる」ことの二点です。積極的な生徒指導を心がけ、各学校、教育委員会、教育事務所が一丸となった「チーム隠岐」で「子供たち全員が笑顔で過ごせる学校づくり」を進めてい

【支援専任教員として】 対話から 生み出すもの

（文責 新谷）
けたらと思います。

十五年前の型式のバイクに乗っている。燃料計などはついていない。二百キロごとにガソリンを注ぎ足す。専門店定期点検を受け、オイルをこまめに交換する。こうして今でも快適に乗ることができている。

タンクに注ぎ込まれるガソリンを見て、ふと考えた。「人間の場合は、どうなるだろう。」私たちも心のエネルギーが切れてしまうことがある。同僚や友人、家族、専門機関等に助けを求める。胸の内を語り、受けとめてもらう。それによって、少しずつ回復する。機械の場合は、人間が直す。一方、人間の場合は、（他者の支援を受けながらも）最終的に心のエネルギーを満たしていくのは自分自身である。日々、児童生徒と向き合っ

ふるさと教育の 充実に向けて

（文責 野津）
い声を回復する仕事と自覚している。

今年度の社会教育の重点にも挙げている「ふるさと教育」ですが、平成十七年度より、島根県の重点施策として進めています。隠岐地域でも、それぞれの町村や学校の実態に応じた取組がなされ、成果も上がっています。

この「ふるさと教育」をより充実・発展したものにするために、ふるさと隠岐についての認識を深め、ふるさと隠岐への愛着や誇りをさらに高めていくとともに、地域を支える次世代の育成をすすめていくこととなります。そこで、地域においては、地域の大人がふるさと隠岐の現状や歴史などに改めて向き合うことで、その魅力や普遍的な価値に気づき、理解を深めていきます。学校においては、地域の人

お詫び

所報五月号の「平成二十九年度指定事業等」において、平成二十九・三十年度に海士小学校が取り組む【人権教育研究指定校事業】並びに、海士小学校PTAが取り組む【人権・同和教育】PTA活動【育成事業】を記載しておりませんでした。お詫び申し上げますとともに追記させていただきますようお願いいたします。

